

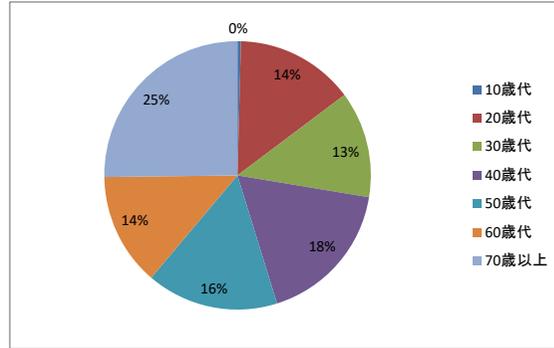
第4回 防災意識についてのアンケート

【アンケート実施期間】 令和6年7月19日～令和6年8月1日

【アンケートの目的】 防災知識等の普及啓発方法検討用

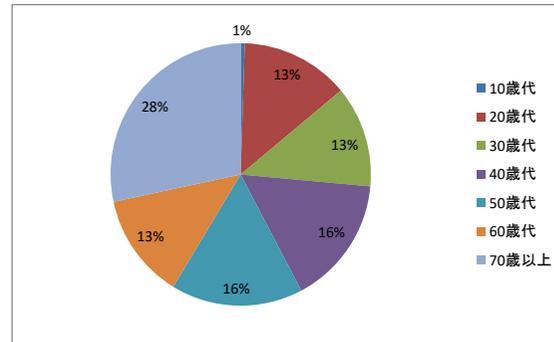
【対象者数】 250 名

内訳	人数	%
10歳代	1	0.4
20歳代	36	14.4
30歳代	32	12.8
40歳代	44	17.6
50歳代	40	16.0
60歳代	34	13.6
70歳以上	63	25.2
計	250	100.0



【回答者数】 208 名

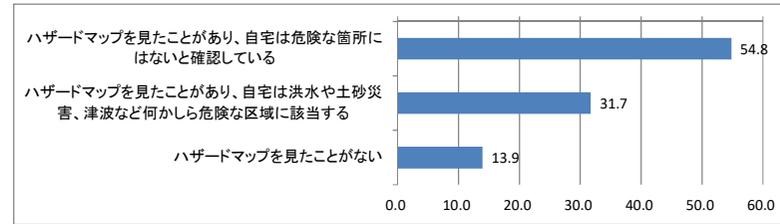
内訳	人数	%
10歳代	1	0.5
20歳代	28	13.5
30歳代	26	12.5
40歳代	33	15.9
50歳代	34	16.3
60歳代	27	13.0
70歳以上	59	28.4
計	208	100.0



【回答率】 83.2%

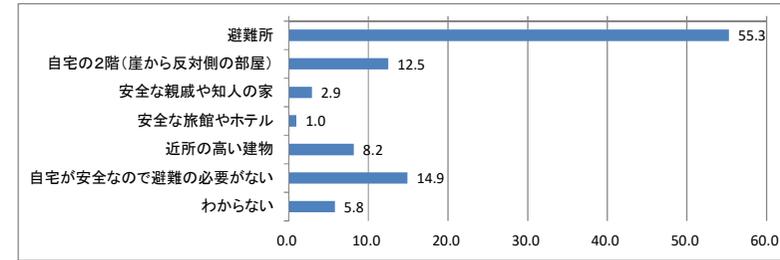
問1 金沢市のハザードマップを見たことがありますか。

回答	人数	%
ハザードマップを見たことがあり、自宅は危険な箇所にはないと確認している	114	54.8
ハザードマップを見たことがあり、自宅は洪水や土砂災害、津波など何かしら危険な区域に該当する	66	31.7
ハザードマップを見たことがない	29	13.9



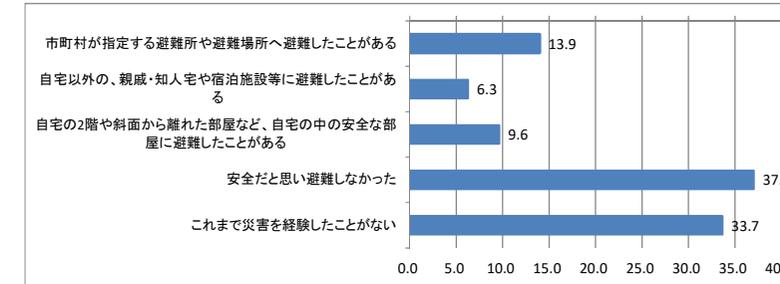
問2 あなたや家族の避難する場所はどこですか。

回答	人数	%
避難所	115	55.3
自宅の2階（崖から反対側の部屋）	26	12.5
安全な親戚や知人の家	6	2.9
安全な旅館やホテル	2	1.0
近所の高い建物	17	8.2
自宅が安全なので避難の必要がない	31	14.9
わからない	12	5.8



問3 大雨や地震などの災害が発生した際に、実際に避難したことがありますか。

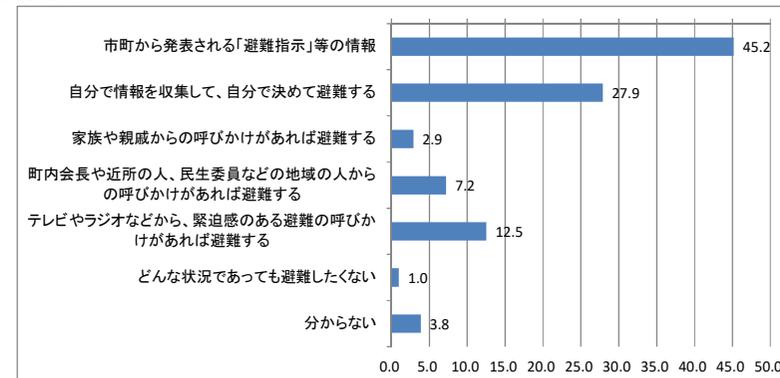
回答	人数	%
市町村が指定する避難所や避難場所へ避難したことがある	29	13.9
自宅以外の、親戚・知人宅や宿泊施設等に避難したことがある	13	6.3
自宅の2階や斜面から離れた部屋など、自宅の中の安全な部屋に避難したことがある	20	9.6
安全だと思い避難しなかった	77	37.0
これまで災害を経験したことがない	70	33.7



問4 あなたが避難行動を開始するきっかけはどれですか。

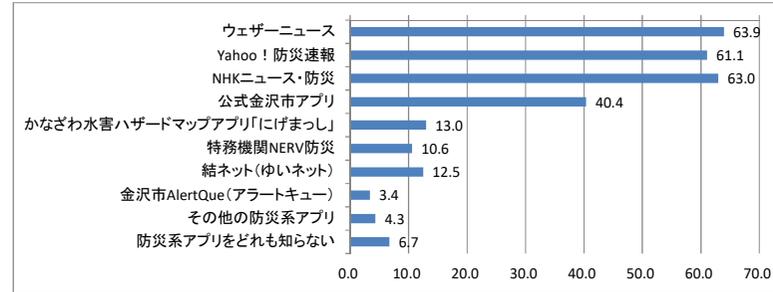
※避難行動とは難を逃れる行動であり、必ずしも避難所へ行くことを指す言葉ではありません。

回答	人数	%
市町から発表される「避難指示」等の情報	94	45.2
自分で情報を収集して、自分で決めて避難する	58	27.9
家族や親戚からの呼びかけがあれば避難する	6	2.9
町内会長や近所の人、民生委員などの地域の人からの呼びかけがあれば避難する	15	7.2
テレビやラジオなどから、緊迫感のある避難の呼びかけがあれば避難する	26	12.5
どんな状況であっても避難したくない	2	1.0
分からない	8	3.8



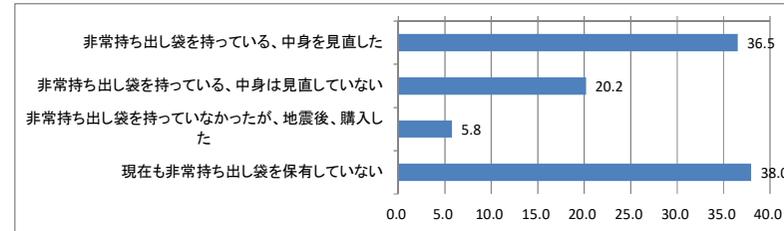
問5 あなたの知っている防災系アプリを教えてください。（当てはまるものすべて選択）

回答	人数	%
ウェザーニュース	133	63.9
Yahoo! 防災速報	127	61.1
NHKニュース・防災	131	63.0
公式金沢市アプリ	84	40.4
かなざわ水害ハザードマップアプリ「にげまっし」	27	13.0
特務機関NERV防災	22	10.6
結ネット(ゆいネット)	26	12.5
金沢市AlertQue(アラートキュー)	7	3.4
その他の防災系アプリ	9	4.3
防災系アプリをどれも知らない	14	6.7



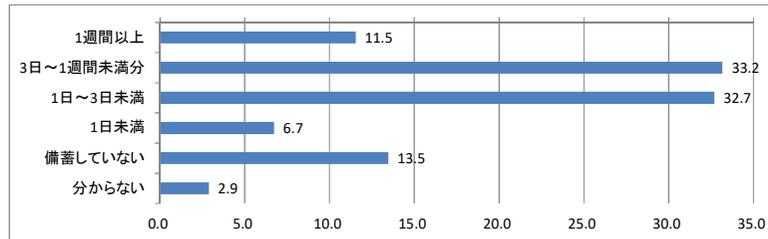
問6 あなたの家には非常持ち出し袋を持っていますか。能登半島地震を踏まえ、中身を見直しましたか。

回答	人数	%
非常持ち出し袋を持っている、中身を見直した	76	36.5
非常持ち出し袋を持っている、中身は見直していない	42	20.2
非常持ち出し袋を持っていなかったが、地震後、購入した	12	5.8
現在も非常持ち出し袋を保有していない	79	38.0



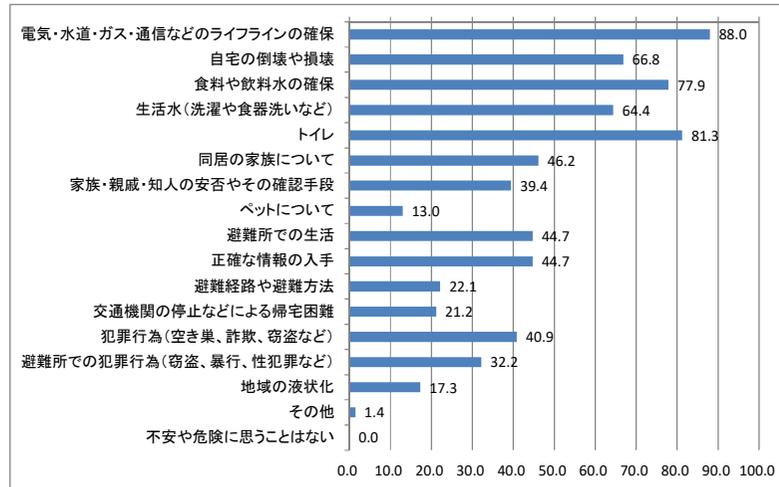
問7 非常用の食料や飲料水は何日分備蓄していますか。

回答	人数	%
1週間以上	24	11.5
3日～1週間未満	69	33.2
1日～3日未満	68	32.7
1日未満	14	6.7
備蓄していない	28	13.5
分からない	6	2.9



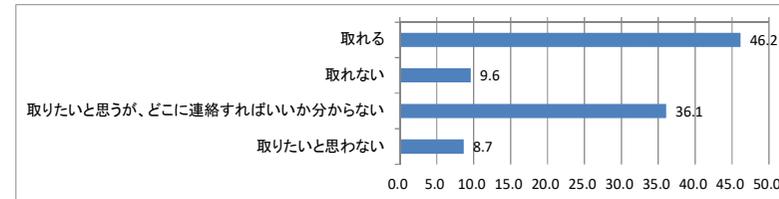
問8 大規模災害が発生した場合、不安や危険に思うことは何ですか。(当てはまるものをすべて選択)

回答	人数	%
電気・水道・ガス・通信などのライフラインの確保	183	88.0
自宅の倒壊や損壊	139	66.8
食料や飲料水の確保	162	77.9
生活水(洗濯や食器洗いなど)	134	64.4
トイレ	169	81.3
同居の家族について	96	46.2
家族・親戚・知人の安否やその確認手段	82	39.4
ペットについて	27	13.0
避難所での生活	93	44.7
正確な情報の入手	93	44.7
避難経路や避難方法	46	22.1
交通機関の停止などによる帰宅困難	44	21.2
犯罪行為(空き巣、詐欺、窃盗など)	85	40.9
避難所での犯罪行為(窃盗、暴行、性犯罪など)	67	32.2
地域の液状化	36	17.3
その他	3	1.4
不安や危険に思うことはない	0	0.0



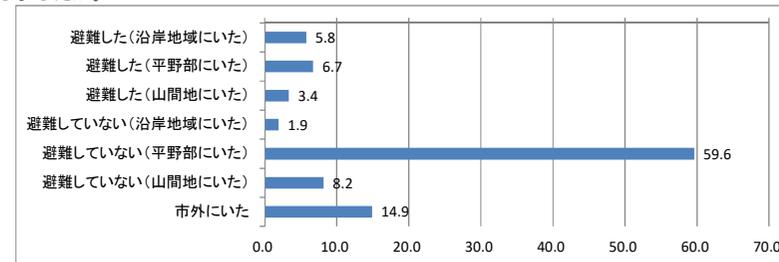
問9 あなたのお住いの地域の民生委員、防災委員、町会長等どなたかと災害の際に連絡が取れますか。

回答	人数	%
取れる	96	46.2
取れない	20	9.6
取りたいと思うが、どこに連絡すればいいかわからない	75	36.1
取りたいと思わない	18	8.7



問10 能登半島地震の際、金沢市内で津波警報により実際に避難しましたか。

回答	人数	%
避難した(沿岸地域にいた)	12	5.8
避難した(平野部にいた)	14	6.7
避難した(山間地にいた)	7	3.4
避難していない(沿岸地域にいた)	4	1.9
避難していない(平野部にいた)	124	59.6
避難していない(山間地にいた)	17	8.2
市外にいた	31	14.9



問11 金沢市内で発生する津波は3.2~3.6mで、第一波の到達予想時間は20分と想定していますが、市民への効果的な啓発方法について教えてください。（全角入力で）

防災無線や地域の放送(58票)
テレビ(45票)
スマートフォンやアプリの警報機能(32票)
ラジオ(16票)
金沢市公式LINE(11票)
過去災害の映像やシミュレーション映像の発信(8票)
分からない、想像がつかない(8票)
防災訓練の実施(7票)
防災メールや学校のメール(4票)
回覧板(3票)
金沢市アプリ(3票)
子供向け防災講座、啓発授業(3票)
津波到達マップを全戸配布(2票)
海の様子を見れるカメラを設置し、ネットで見られるようにする。
該当する場所に住む人達に繰り返し、文書や町内会行事などで何度も伝えておく。
結ネット
ハザードマップ上では津波が発生しても中心部までは到達せず、ほとどの市民が避難する必要はないはずだが、能登地震では避難する必要のない人まで避難し、道が混雑した。どの地域の人が逃げる必要があるのかを町内会の回覧板などで周知すればよいと思う。また学校でもハザードマップを見る機会があればよいと思う。
ヘリコプター
携帯電話のアラーム
「恐怖感の押し付け、被害の最大化イメージの発信など」という啓発方法は、逆効果になるように思います。うまく言えませんが、、、。
金沢市のハザードマップに応じた情報がその地域の方々に確実に伝わる方法を明らかにしてほしいです。地域のどなたがご存知なのか、どこが確かな情報なのか不明です。避難所の情報も不確かだ緊急事は混乱しそうです。
どのような協力ができるのか、自分を守る行動を具体的に、地域での啓発が必要だと感じています。
能登地震の時、震源地近くには情報は全く無くなりアラートも鳴らなくなり山に避難したが隆起した後で知ったのが津波はとつくに到達していたの事だった。本当に20分なのだろうか日本海の津波はサイド見直しが必要だと思います。
あらゆる方法での啓発
地域住民同士での声掛け(町内会)の徹底
車を使う人が多く道路が渋滞していた近くの高い建物(某企業)に避難したが津波が発生していないとのことで入れてもらえなかった。市として会社との交渉をしてもらえないか?
高台、近所の公民館、公共施設 地区住民の連絡する
町内会を通じて人と人へと、早く正確な情報の拡散。
地域別に避難する場所を明確にしたい
フリーペーパーやネット広告
早めの広報とネットの活用
スローガンにする。
普段より家族、近所の人たちと災害の時の逃げる場所、集まる場所を決めて置く。
SNSで、けたたましい警戒音を流し、文字・地図で知らせる
近所の人への大声での呼び掛け
金沢の地形から考えて津波が一気によりも、大小の河川からの逆流で街へ入り込むのが怖いと思います、この点からの啓発も大事、そしてすぐ車での移動は渋滞や事故を起こしかねない、まず自分の近くの高い建物への避難を前もって考えておく。
今いる場所で最も近い所の最も安全性が高い所の避難が大事ですので、市内で高層ビルの避難場所の確保の徹底を広報してほしいと思っています。
継続して情報発信を行うこと
電柱に想定される津波到達の高さをマークする
「緊急地震速報」と「防災無線」による避難指示は一定の効果があったと思慮するが、「津波に関する避難」については、「TVなどによる情報」をゆっくり確認するような傾向にあることは否めない。このことから、「大きな揺れ」を知らせる特殊な「音」と区別する「津波による避難の緊急性」を知らせる「音」と「防災無線」の併用で、到達予測時間が迫っている等の状況を知らせるための発信方法が新たな効果を生むと考える。
県庁や県立病院は海拔0mと言われています。津波3.2~3.6mが発生した場合、どのあたりまで到達するのかに限定したハザードマップを作成・周知することが大切かと思います。(既にあるのかも知りませんが)
実際に避難できる高台や建物に避難する訓練をしないのでは。どこに避難するのが現実的に安全なのか。ただ学校を避難場所にすればいいというものでもないと思う。現実的ではない。
情報網を十分に発揮し遅れないようにしたい
避難訓練を町会任せにしない
高齢者、障害者、子どもたちを優先に考えて行動を起こす事
「学校で教えると親は子供から学ぶ」のも一つ
今回の津波警報では、自分は海岸から5km離れているので平地で3mの津波で大丈夫と考えていましたが近所の人は近くを流れる伏見川が大きく氾濫する可能性があり避難したと後で知らされました。津波の高さにより市内ではどのくらいの洪水が起きるのか広報により知らせるべきとありがたい。
SNS

事前に連絡する
4mあれば津波にじゅうぶん(20分)
いろいろなメディアを使って、繰り返し危険性と避難の重要性をPRする。
立体駐車場へ避難、高速道路へ行く
新聞
夜間、早朝時の津波に20分の余裕時間は厳しいがいくら平素から避難場所を決めておいても果たして夜間にその場所まで避難できるか不安です。夜間だとビルに逃げ込むのも閉まっていることが想定されます。夜間対策が必要になると思う。
想定被害を具体的に視覚化すること。
市の広報で定期的に啓発する。市の防災系アプリで定期的に情報発信する。子供向けには小・中学校での災害防止講座で教える
的確な情報の発信にと受け取れる体制の確立。にげまっしをダウンロードしたが、あまりにもうるさい。ちょっとしたことで都度大音量で警告がはいり、結局消してしまった。もっと改良の余地あり。もっと使う側の身になってアプリを作してほしい
ポールなどの目立つ位置に予想される高さを示すサインを設置し、情報サイトへ誘導してはどうでしょうか。
公民館からの啓発
緊急地震速報の津波避難版を作成して流す。過去に津波被害に遭われた自治体の関係者や被災された方に金沢市へ来ていただき、講演を拜聴する。過去に津波被害に遭われた自治体へ出向き、その地域の方と交流する。防災士の資格取得を支援する。
高い場所へ避難
津波の高さと到達予想想定時間、あらかじめインプットしておくとか警戒の目安になるかもしれませんが。自宅は4.1mなので大丈夫?と思いました。いろいろな情報が欲しいです。
各戸へ防災のしおりを定期的に配布
対象地域の電柱の全てに、標高と共に、20分で到達すること、最寄りの避難場所やビルなら何階以上に避難するかを告知する看板を設置する。
車で避難しない方法の徹底年少者やご老人たちの安全、安心な避難の方法の周知
金沢市の防災スピーカーの音声の内容がよく聞こえない。(直前に住んでいた横浜市では明確に聞こえた。時々、よく聞こえるかの試験放送も流してチェックしていた)
行政の再教育
津波避難必要な場所では誰でもわかる様な掲示板や標識の設置や定期的な防災報道
津波に関して、知識、関心ないと思う。市民への啓蒙活動が必要です。
日頃から自分の住む地域の海拔を意識させることと、町会で防災訓練参加者に防災グッズ(食品など)を実演後配布するなどの活動を通して防災意識を高めるとともに地域の人も交流できる行事を増やす。
ラジオ、テレビでCMを流す。緊迫感がないと他のCMに埋もれてしまうため、真面目な雰囲気や想定される津波の事実を伝え、20分で県庁の2F?まで波がくるなどのイメージビデオを流せば危機感を持つと思う。3.2m、20分と言われてもイメージがしづらい。
具体的地区名を表示したメール等の配信を行う。
テレビや消防署などで、連絡をしてほしい。
全員非難するように呼びかけることが大切だと思った。
東日本大震災を目の当たりにしているので、能登地震似合っても、意識は変わってきていると思う。まず避難という意識を深めていくことを、事あるごとに徹底していくしかないのでは。
能登地震の後、石川県民の防災意識、関心は高まっている。ハザードマップを活用して、各町内のシュミレーションを回覧する。啓発と同時に、避難所の耐震や安全の見直しが必要。
市でのアナウンスでは聞こえにくいので、それ以外での方法を考える
常日頃から防災意識を高める啓発活動を継続的にを行い、津波に対する対処法も併せて知らしめる

問12 防災に関するご意見、または、防災出前講座で市民に啓発すべきことがあればご提案ください。(全角入力で)

防災無線が聞き取れない(7票)
防災出前講座を町会単位で実施してほしい(4票)
非常持ち出し袋の作成。北陸は特に防災意識が低い。
地震後の報道を見ている限り避難所の設備が不安なので、予算を多めに割いていただきたいです。
地震が起こった際に、今いる場所は避難するべきかどうか分らなかった。すぐにハザードマップを見たが、洪水や地震のハザードマップが混在し分かりにくかった。にげまっしアプリをスマホに入れておくと、いざという時に安心だと思う。
町会毎のイベントで防災啓発を毎年行うと思う。学校で授業を受けた子ども達の方が大人よりも詳しいので、地域の取り組みは素晴らしいと思う
能登地震で能登の実家は被災しました。高齢の父は避難所までの坂道が登れませんでした。また、避難所は集会場ですが耐震基準を満たしておらずまた、備品(食料や暖房器具)も無かったです。町会長?も、食糧や備品要請の連絡先をご存知なく、なかなか救済の手が届かなかったようです。(連絡先をご存知の避難所はすぐに救援物資届いたようです)また、1/2に実家と連絡取れましたが「世の中どうなるのか?」と聞かれた情報不足も感じました。各所から同じお話をお聞きかと思いますが、参考にしていただければと思います。自宅では、1月以来、大量の水をストックするようになりました。
ハザードマップの確認と、避難場所の特定。家族間共有
いざ!というとき、どういう行動をとれば良いか、今一度しっかり啓発すべきだと思います。具体的に避難グッズの中身(100均などでも揃えられるものなど)?使い方など。防災だけでなく、防犯知識も必要な気がしています。
自分の身を守るため、地域のみなさんと共に助け合いには、1人ひとり何がしたらよいのかを意識できるようになることを、市民講座や、教えてくださる場所を作っていただきたいです。
自分は大丈夫との思い込みは確実に被害に直結する迅速な判断が必要。古い知識と判断では本当の災害では死に直結する事を思い知らされた。常にアップデートが必要だと思います。
金沢市は道路が狭いところもあり地震が発生し家屋が倒壊したときに避難が難しくなることが考えられますので避難導線はそうしたことも考えて啓発等することが必要と思います。
今回の地震では水道がでなくなったため生活用水の確保に苦労した。生活用水が確保できても止水時のトイレ等への使用方法が家族で共有できていなかったため普段からレクチャーが必要だと感じた
9/1防災の日 に市民には意識を高めるために防災訓練や防災グッズの確認をしてもらえるよう市長などが声明をだしたりメディアで取り上げてもらえるようにする。普段からの意識が生き残るには重要なと考えます。
避難場所を増やして欲しい。現在は川を渡らなくてはならないので安全面で心配です!

日頃、正直災害とは無縁と思っていたところがありました。1月の地震で備えの大切さ等痛感しました。友人の地域では実際に簡易トイレの作り方など具体的に指導があったとか。公民館など身近な場所で具体的な準備の方法等教えていただけるとありがたいです。
避難所の備えはどうなっているか？避難の仕方。徒歩で遠い場合など。
年に一度は、避難訓練を実施すれば、多少なりとも効果があるのでは・・・
町会役員任期時に防災計画策定に携わったが、一般的に行って役員さえも危機意識が低く、計画を立てても計画倒れになる。危機意識を常に堅持して日常から具体的に準備すべきことを実行するように徹底することが防災の鍵になることは間違いない。例えば防災連絡網を作成しようとするれば当然携帯電話の番号を申し出るべき所、局番を申し出るなど、個人情報保護に過度に神経を使い過ぎている。防災のためには個人情報も犠牲にすべきである。個人情報保護が防災の障害になって、計画が徹底できない。
マンション住まいなので、地域の方との繋がりがなく、どう連絡するのか対策が欲しい。
仕事をしているとなかなか講座等に参加する時間が作れない。YouTubeでの配信があれば見るみないは自己責任で済むからいいと思う。
河川氾濫、土砂崩れ、液状化、活断層に関する詳細な住宅マップの提示する。
避難場所を明確にする
こまめに啓発、情報発信を行ってほしい。元日の地震を経験しても日がたつにつれ忘れてしまいそうなので、常に準備ができる体制づくりは必要だと思う。
地域の高齢者、若者の面識がなく、避難所へ行っても、情報交換ができずらい。
避難所に無駄になってもいいから食糧品と水、簡易トイレを備えてください。企業は5年分備蓄しています。今回の地震 熊本地震の経験を活かせることが出来たはずなのに何も出来なかった。宮城県もデータを持ってはらずです。共有して速やかに復興してください。
小学校の避難所は検討すべきだと思う??また、下水道の復旧を優先する??
実際に、避難所へ集まり、そこで防災講座をし、備品等の確認や使い方を学ぶ。小中学生については、小中学校と連携し、避難所での宿泊体験をする。
自宅にて、外から防災無線が聞こえて窓を開けて内容を確認しようとしたのですが、言葉がほとんど聞き取れませんでした。アラートキューでも再生されず確認を諦めました、改善を希望します。
能登半島地震の時に私は白山市にいたので白山市での話になるのですが、避難した際ストレスで生理と蕁麻疹になりました。その際はすぐに家に帰れたのでよかったのですが、帰れなくなっていたら生理用品や蕁麻疹の塗り薬などが無くて大変だったと思いました。また、男性職員の方が声かけにきてくれていたのですが、女性職員もある程度いてくれた方が相談しやすいなと思いました。
参加者おおよその地域ごとに具体的な行動指針を提示する
能登震災の教訓として寒い時期に暖房のない体育館は苦痛です、予算計画を立て、体育館が避難場所であるなら冷暖房施設の設置を早急に進めてほしいです。
それぞれの町会長推薦で防災士資格が取れる事を知りました。このような情報もラインで配信すると良いのではないのでしょうか？知らない人は多いと思います。
高齢者、障害者、子供、幼児など弱者に対してどれだけサポートできるか、聴覚障害、視覚障害者にどのように情報を知らせる事ができるか。
ハザードマップの対象を減らせる街づくり側の工夫(擁壁強化など?)にも期待したいです。
地域活動への参加、顔見知りを増やす
1月の能登半島地震が起きるまで、金沢市は地震が少ない場所と認識していた。先ずは、どこにいても地震は起きるという意識改革を持ってもらう。次に、最低限、必要な物を準備しておく。また、避難する際、援助が必要な人をリスト化しておく(町会単位で)情報が沢山流れるので、デマに振り回されないようにするには、どうしたら良いか教えて欲しいです。また、出前講座は、メディア(テレビ等)・SNSを使い啓発して欲しいです。
「金沢市ハザードマップ」の作成等について関係部署のご努力に感謝申し上げる所ではありますが、「スマホやタブレット」等で確認する場合、機器類の表示倍率能力?のせいか、拡大画像がぼやけてしまい役に立っていない現状にある。詳細なハザードマップが確認できるものを、印刷物として公民館又は避難指定場所並びに各戸に配布していただきたいと考えている所。
災害の形態により取るべき行動が大きく異なると思っています。一律避難ではなく災害の形態に応じた対応方法を教えていただきたいです。
私が住んでいる地域は河北潟近く浅野川沿いだが、周辺にすぐに避難できる、高さのある建物がない。小学校はあっても、徒歩で15分はかかるし、三階建てで安心できる高さでもない。また、川や用水にどこも囲まれていて、徒歩で避難するのは危険しかない。いったいどこにどうやって避難しろと言うのか。
再度 災害時の避難対策を確認 各家庭が家族が把握できるように 啓発して欲しい
今一度自分の家が安全なところに立っているか確認する。どうやって調べたらいいかわからないと思うので盛土やもともと地盤が弱いことなどをネットで調べられたらよいと思います。とにかく簡単に。
批判に負けず、市はここまでしかできないということを伝えることだと思います
警報や注意報のレベル、危険度を分かりやすくして欲しい
避難場所は近くの小学校だが更に近い市の施設も対象になるのかそんなことも知りたい。避難場所に持っていくものがあつたら事前に知らせて欲しい。避難場所に行っても食べる物がもらえず辛かった、避難する時に家にあるお菓子等食べる物を持って行ったが周りに遠慮して食べられなかったと言う人もいました
住んでいる地域のハザードマップを確認して、災害の種類によって避難方法を考えてみる
「災害は忘れた頃にやってくる」の格言は間違いないと思います。
町会長や防災委員の携帯電話番号の周知、町会としての避難場所の周知など。*我が町会の避難先に行くには伏見川を渡っていくことになっているが、危険と思うので再検討が必要と思う。
我が家は、能登地震であんなに怖い思いをしたのに、準備しなければと思いつ、時が流れ、非常持ち出し袋を準備していません。実際に地震被害に合われた方の経験談をお聞きしたいです。
防災、町内会、市役所が一体となったスマホアプリの充実
ハザードマップに従い、定期的に避難訓練を行う。
防災備蓄や避難所設営ノウハウ
金沢は、暫く大きな災害に見舞われておらず、自分も含め「他人事」感があると思う、各種マスコミやSNS等を含めたキャンペーン、強化週間等の市民への意識高揚を高める事が必要だと思います。
小学校にも防災出前講座をしてほしい。町内の集まりなどでも(祭りなど人が集まる機会に)
防災講座は何度でも受講して実際の行動も確認しておく事が必要です
避難するときの気をつけること。避難所での生活出会った方が良いこと
食料や水の確保の方法、汚れた水を飲料水に変える方法
津波がどこまで来るか、津波のときの川沿いの安全について
地域密着型の警報が必要

道路啓開計画を策定されていないと思われるので、名古屋市など、先行している街の事例を参考に、道路啓開計画を策定する。道路や鉄道などの、公共交通インフラの被災想定を確認する。名古屋市では実施していたが、消防・救急、警察、自衛隊及び道路管理者など、一同に会した総合防災訓練を実施する(有事に備えての顔の見える関係構築にも繋がる)。前述が困難であれば、市役所の職員が、公共交通インフラの防災訓練に参加する。
日々防災に注意して生活
独居高齢者が多く、自身も後期高齢者なので安全を確認出来るか、また耳の遠い方も多く災害を認識していただけるか心配です
安心安全な場所は日本にないので準備を怠らず危機意識を持つこと
避難指示がでたら、迷わず早めに避難するよう呼びかける
能登半島地震の際に避難所に行ったが鍵が空いておらず、多くの人が避難所に来ていたけれど立ち往生しており入れないくらいなら自宅にいた方がまだ安心と考えていたところ、どなたかが玄関のガラスを割り鍵を開け建物内に入ることができました。なので鍵がない場合の対策。また、現代社会はネットでテレビ番組が見れる社会なので誰が避難しても学校内の設備でスマホを使用しなくても教室内のみんながニュースを見れる様になっていると良いなと震災避難の経験をして思いました。
ネットの使い方 講座
本来、罹災すると誰も助けてくれない。はっきり伝えるべき。
旅行先など居住地以外の場所で災害に遭った時の対処法
東日本震災の際あれだけ車で避難が危ないと言われていたにも関わらず金沢市民が車で移動してあちこち渋滞が起きた事をしっかり見直して欲しい
日頃からの地域の連携強化、指示系統をはっきりさせておく。
能登の実家あり石川県としての情報や支援等対応の必要を感じてる。
車で逃げると渋滞につかまる
金沢市内の津波の想定高さ、時間をこのアンケートにて知った。実際に津波が来るまでの20分で何が出来るのかをシュミレーションすると良いかもしれない。家族に連絡2分。倒れた物を起こす2分。家電、火の元を消す2分など。津波の場合、実際に高台に逃げる時間が少ない点に気づくことが必要かと思う。
自分は大丈夫だと思い込んでいるので、それが最も危険なこと。多くの方がそうなのかも知れません
能登半島地震のとき金沢港付近の人が、津波アラートがあったにも関わらず近くのコンビニやドラッグストアなどに避難していた。津波が来ていたら被害にあったと思う。
防災訓練は起こる災害(地震、洪水、津波等)を想定し、それに見合った訓練を実施すべきではないでしょうか。
ペットを飼っている人が安心して避難できる場所、仕組みが必要だと考えます。校下有志での活動もできますが、行政の協力があってこそです。小学校の一部教室をペット同伴専用にするなどの対応も検討の一つと考えます。
マンションでの出前講座は全然ないので実施してほしい。
どうしても、喉元過ぎればというところがあり、いかにして、あの1月1日を忘れずに行けるか。あの怖い思いをいつまでもわすれずに。
時々金沢市内でも森本富樫断層の地震発生が話題になっていますが、それに備えて具体的に各自各々の備え訓練が地域ごとに継続性のある形で実施して欲しいです。
近隣(町内会)等の伝達方法や情報をいかにして早く伝えられるか、常日頃から、隣近所の情報交換ができる仕組みつくること?かな
能登震災の時は家族に避難を呼びかけたが大丈夫だろうと言われた。大きな被害に遭うまでは危機感は薄いと思う。もちろん市民それぞれが対策をとるよう啓発する必要があると思うが、公的機関による災害時の備蓄(避難所の設備を含めて)も極めて重要だと思う。
甘く見ない。自分は大丈夫と思わない。空振りでも早めの行動を起こす。
一番実感できるのは、実際に被災して命の危険にさらされた方の体験談を出前講座などで語ってもらうことではないかと思ます
詳細な被害記録が残っているという江戸期の金沢地震について講演・広報等で詳しく紹介してほしい。地震は繰り返すと聞きますので、具体的に有効な啓発になると思います。